



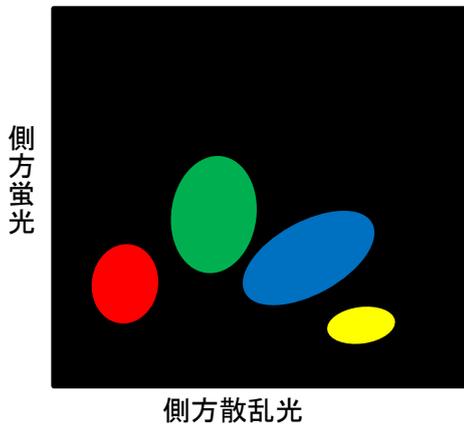
### 自動血球分析装置による白血球分類の原理

#### 自動血球分析装置 XN-3000 の白血球分類の原理

- ① 各白血球の細胞内部構造の複雑さを側方散乱光で測定する。
- ② 蛍光色素で核酸および細胞小器官を染色し、その種類と多寡を蛍光強度(側方蛍光)で測定する。
- ③ フローサイトメトリー法により、各白血球の側方散乱光 (X軸)と側方蛍光(Y軸)を二次元白血球分類スキャッタグラム(図1)に展開する。
- ④ リンパ球、単球、好中球+好塩基球\*および好酸球の各クラスター(集団)に分類する。  
同時に異常細胞(図2)の検出を行う。

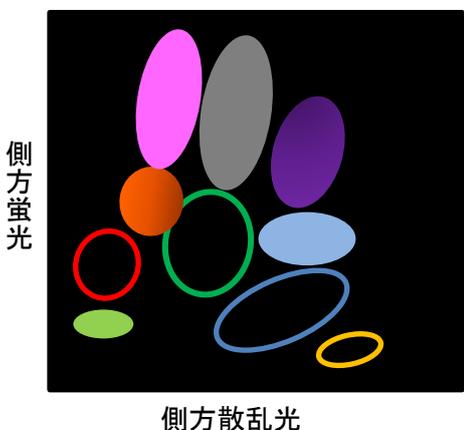
\* 好塩基球の同定は別の試薬とスキャッタグラムを利用して算出する。

図1 白血球分類スキャッタグラム



クラスター	種類	基準範囲(%)
	リンパ球	23.1~49.9
	単球	4.3~10.0
	好中球 + 好塩基球	39.8~70.5 + 0.3~1.4
	好酸球	0.6~5.4

図2 異常細胞出現パターン



クラスター	異常細胞(表示)	異常細胞
	Blasts/ Abn Lympho	芽球/異常リンパ球
	Atypical Lympho	異型(反応性)リンパ球
	Blasts	芽球
	IG	幼弱顆粒球
	Left Shift	左方移動(桿状核球増加)
	NRBC	有核赤血球

Sysmex XN-Series Clinical case report Vol.2 を改変

詳しくは血液検査室(5655)にお問い合わせください。